

テトスへの書

第一章

一 神の僕またイエス・キリストの使徒パウロ——我が使徒となれるは、永遠の生命の望に基きて神の選民の信仰を堅うし、また彼らを敬虔にかなふ眞理を知る知識に至らしめん爲なり。二 偽りなき神は、創世の前に、この生命を約束し給ひしが、三 時いたりて御言を宣教にて顯さんとし、その宣教を我らの救主たる神の命令をもて我に委ねたまへり——四 われ書を同じ信仰によりて我が眞實の子たるテトスに贈る。願くは父なる神、および我らの救主キリスト・イエスより賜ふ恩恵と平安と、汝にあらんことを。

五 わが汝をクレテに遺し置きたる故は、汝をして缺けたる所を正し、且わが命ぜしごとく町々に長老を立てしめん爲なり。六 長老は責むべき所なく、一人の女の夫にして、子女もまた放蕩をもて訴へらるる事なく、服従せぬことなき信者たるべきなり。七 それ監督は神の家司なれば、責むべき所なく、放縱ならず、軽々しく怒らず、酒を嗜まず、人を打たず、恥づべき利を取らず、八 反つて旅人を懇ろに待ひ、善を愛し、謹慎あり、正しく潔く節制にして、九 教に適ふ信すべき言を守る者たるべし。これ健全なる教をもて人を勧め、かつ言ひ逆ふ者を言伏することを得んためなり。

一〇 服従せず、虚しき事をかたり、人の心を惑す者おほし、殊に割禮ある者のうちに多し。二 彼らの口を籍か

イ 雅一・一 黙一・二 (羅一・二 腓一・一 等)	チ 提後一・九を見よ リ 羅一・二 ヌ 提前二・六を見よ ル 提後四・一七 (羅一六・二六)	タ 提後一・二を見よ レ 哥後二・一三を見よ ソ 羅一・七を見よ ツ 徒二七・七を見よ (多一・二二)	ニ 提前二・一〇を見よ ノ 哥前四・一を見よ オ (彼後二・一〇) ク 提前三・三 ヤ 提前三・三、八を見 よ	エ 多一・六 テ (掲前一・六) ア 徒一・二を見よ サ (哥後一・二三)
ハ 多三・七 (提後一・ 一)	ヲ 提前二・一多二・一 〇、三・四 路一・ 四七を見よ	ネ 徒一・三〇を見よ ナ 徒一四・二三を見よ ラ 六・八 提前三・二 一四を見よ	マ 提前三・二を見よ ケ (提後三・三) フ 撤後二・一五 提前 一・一八 提後一・ 一三	
ニ 路一八・七を見よ ホ 提前六・三 ヘ 提前二・四を見よ ト 提後二・一三 來六 ・二八	カ 提前二・一 コ 彼後一・二 (猶三)	ウ 弗五・一八を見よ		

二 一度もしくは二度訓戒して後これを棄てよ。二斯る者は汝の知るごとく、邪曲にして自ら罪を認めつつ尙これを犯すなり。

三 我アルテマス或はテキコを汝に遣さん、その時なんぢ急ぎてニコポリなる我がもとに來れ。われ彼處にて冬を過さんと定めたり。三 教法師ゼナス及びアポロを懇ろに送りて、乏しき事なからしめよ。二四 斯て我らの伴侶も善き業を務めて必要を資けんことを學ぶべし、これ果を結ばぬ事なからん爲なり。

一五 我と偕に居る者みな汝に安否を問ふ。信仰に在りて我らを愛する者に安否を問へ。願くは御惠なんぢら凡ての者と偕にあらん事を。

テトスへの書 をはり

イ(太一八・一五、一六)	(提後四・二二)	リ徒一八・二四を見よ	・二六)	レ西四・一八を見よ
ロ(約貳一〇)	ホ提後四・九を見よ	又(徒一五・三)	カ腓一・一一	西一・
ハ(多一・二四)	ヘ(提後四・一〇)	ル(多二・八後半部)	一〇(太七・一九)	
ニ徒二〇・四を見よ	ト(提後四・二二)	ヲ多三・八を見よ	ヨ(徒二〇・三四)	
	チ太二二・三五を見よ	ワ(羅一二・一三 腓四	タ(提前一・二)	

三・一〇 或は「黨派を立つる者」と譯す。